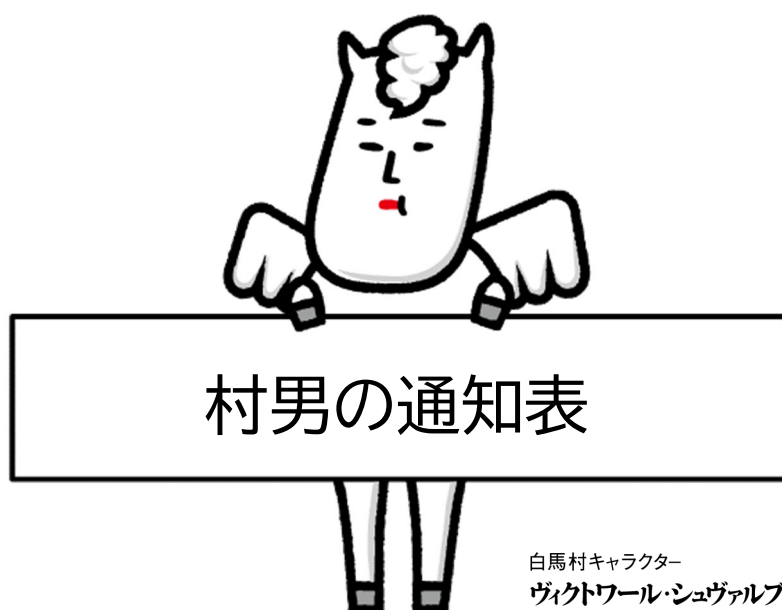


令和 6 年度
白馬村第5次総合計画・総合戦略評価
(令和5年度実績)



評価の目的

総合計画・総合戦略の重要業績評価指標(KPI)等について、PDCAサイクルに基づき事業進捗状況を確認するため、内部(役場)と外部(住民)の視点から毎年度評価を実施しています。

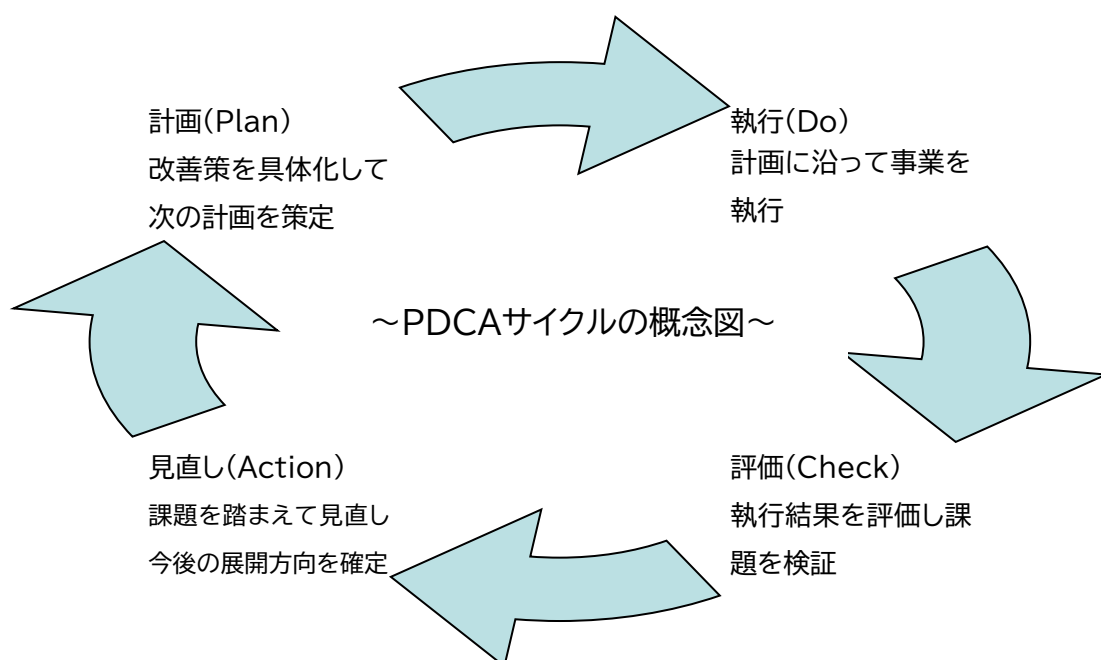
<白馬村第5次総合計画 22 ページ「3. 総合計画の推進」より抜粋>

開かれた村政と住民参画の推進を村政運営の基本とします。計画期間中は、事業の達成度や時代潮流の変化を確認するために、計画の進捗状況の検証を行うため、白馬村総合計画等評価委員会設置要綱の規定に基づき、PDCAサイクルによる検証及び評価により、随時点検と見直しを行います。

※「PDCAサイクル」とは

事業の管理業務を円滑に進める手法の一つ。

Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する仕組みをいいます。



白馬村第5次総合計画 - 評価シート

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価				
暮らし__安心して みんなが暮らせる 村	多様性を尊重 し、住民が主 体的に共生・ 協働する村づ くり	住民参画と 協働	行政区の主 体的な取り 組みの支援	総務課	行政区加入率 ・R3：2,680/3,817（世帯） ・アパート居住者等を除外すれば、 9割程度になると見込む	70%	66%	64%			80%	減少傾向にあるが効果的な対策は講じられていない。 転入時の案内だけでは十分ではないため、随時の周知等も検討していきたい。	2.9	外国人を含めて村外からの移住者や一時的な在留者が増えているが、行政区の成り立ちについて理 解されているのか不明。理解や加入を促す取り組みに期待したい。 20代～40代の若い世代が行政区加入の必要性を感じていないように思われるため、それを伝える機 会が必要。 行政区加入率向上について各地区役員等の協力体制に期待したい。 行政区加入は最も難しい問題であり、さらなる研究が必要である。昭和50年代から継続している問 題であり、特に住民数が増えている地区や自営業者が多い地区にその問題は顕著に現れている。財 産区と行政区、地縁・血縁、因習・習慣、自由・人権、長老・家父長制など稚拙な運営と行政区の 民主的で透明性・客観性をもった高度な運営の違いなどの問題から考えた方がいい。多様性から生じ る問題の解決方法が確立されていない地区がほとんどである。人間関係を構築するのが不得手な人も いる。 白馬村は不動産投資のターゲットになっているため、何らかの方法で村への還元を促してほしい。 多くの農地が投資目的に開発されることに不安を感じる。沿線道路沿いに開発目的にした支線（位 置指定道路など）が増え、渋滞や除雪・排雪等の問題が多くなっているように思う。 地区担当職員が行っている具体的な支援業務が分かれば評価しやすい。 屋根雪下ろしなど除雪作業を支援する人が必要。 協働のまちづくり推進の法人への働きかけを望む。	2.8				
					地域づくり事業補助金活用地区	23	20	19			30	効果的な地域づくり事業が図れるよう、引き続き行政区役員への連携を 図ります。							
			行政区の継 続的な活動 の支援	総務課 農政課 建設課	集落支援員数	6	6	6			5	【総務課】2名 各地区の状況把握、認可地縁団体設立支援、作業等の支援、海外か らの移住者に伝達すべき情報や資料の英訳等を行い、多様な地域課題 の解決を図りました。3地区が新たに認可地縁団体となりました。 【農政課】3名 2名は草刈、支障木伐採等に従事しています。1名は農業振興地域整 備計画の見直しの現地確認等に従事しており精力的に活動しています。 【建設課】1名 R5年度も集落支援員1名を雇用し、夏期の道路維持作業及び冬期の 凍結防止剤散布作業等対応しました。これによりきめ細かい道路維持作 業ができたほか除雪コストの低減にもつながりました。							
					住民活動・ NPO等の支 援	総務課	協働のまちづくり推進交付金交付 件数（累計）	2	2	2						5	様々な団体に活用いただけるよう、制度の啓発・周知に努めます。		
			開かれた行 政運営	行政情報の 発信	総務課	白馬村行政HP PV数 （行政トップページPV数）	152,207	150,256	126,872			200,000				R5年度にトップページを改修し、閲覧者が知りたい情報を見つけやすい見 出し構成とデザインの更新を行いました。引き続き閲覧者が利用しやすい情 報発信に努めます。	3.7	メディア露出も増え、あらゆる意味でも注目を集める地域になっている。 インターネットなどを利用した最新の情報伝達方法も良いが、それらを利用しない高齢者などが取り残 されないように配慮が必要。 SNSの発信はよく見かける。フォローも増えていて良い。 かなり充実してきている。他の自治体と比較して遜色はないが、さらなる進化を期待する。 行政からのプッシュ式の情報発信をもっと行なってほしい。 X（旧Twitter）やフェイスブックだけでなく、LINEの充実を図ってほしい。 ユーテレ白馬の視聴率がわかれば評価しやすい。 ユーテレの番組の内容を再考してほしい。 地区懇談会の開催時間は地区の要望を聞いてほしい。役場側の出席者は村長だけで良いのではな いか。	3.6
						行政Facebookページ フォロー数	2,080	2201	2,527			2000 2500				行政ホームページと連動して、プッシュ型情報発信の重要コンテンツとして 積極的な活用を実践しています。引き続きSNS利用者への情報発信に 努めます。			
						ユーテレ白馬加入件数	2,128	2,179	2,191			2,200				転入出による年度毎の増減はあるものの、直近では確実な加入者増を 達成しています。 番組審議会における意見や課題を踏まえつつ、地域に根差した情報発 信に努めます。			
				意見交換の 場づくり	総務課	村への施策提案等のシステム構築 （行政懇談会の開催状況：R3・ 4地区）	0 (4)	0 (5)	0 (11)			1				提案・提言のシステムは構築できていませんが、地区懇談会を開催する地 区は増加傾向にあります。			
		多様な 人々の 交流・共生	移住・定住 の促進	総務課	人口	8,452	8,566	8,739			9,000	4月1日時点の人口については、冬季に増加する外国人住民の影響が残 るため増加傾向にありますが、通年定住者はほぼ横ばいもしくは微減と なっています。定住人口の増加に向けて、各種施策を全庁体制で進めま す。	3.0	地価の高騰と家賃の高騰により、移住者・定住者が増えない状況になっている。 若者が帰って来れる環境整備が必要。 優良な定住促進の住宅が供給できるよう、土地開発公社や住宅供給公社等の仕組みを活用してほ しい。 定住者の促進と子育て世代が夫婦共に働ける環境づくりを強力に推進してほしい。 人口減少、人手不足等、地域課題解決に向けて、空き家・空き地バンク制度の運用に期待したい。 最も期待されるべき項目であるが、あまり成果が見られない。 デザイナーや芸術家、自然探検家・冒険家等の進化的な人が住みたい「街」を目指している自治体の 活動が羨ましい。 外国人世帯を受け入れる体制整備が課題。 多文化共生に関しては、外国人だけでなく、移住者と行政の意見交換があってもいいと思う。またその 結果を広報してほしい。受け入れ側の意識を高める必要がある。特に元々の白馬村民の方との意識 のズレが気に掛かる。ネイティブVS.リベラルの構造が融和する施策が必要。 ふるさと白馬応援隊は組織を再考して他の事業と併せて推進した方が負担軽減や効果的・効率的 だと思う。	3.5				
					人口の社会増数	-60	330	273			200	暮らしやすい生活環境の実現と、将来にわたって希望が持てる地域とす ることなど、転出者の抑制につながる取組みにも注力していきます。							
					地域おこし協力隊員数	2	1	1			10	採用後の協力隊とのミスマッチが生じないよう職員向け研修を実施し、制 度や活用に向けた理解促進を図りました。 重点施策や将来的波及事業を踏まえつつ、適正募集に努めます。							
					移住イベント出展回数	2	2	2			4	長野県や広域連携自立圏事業とも連携し、移住イベントに参加し、空き 家・空き地バンク制度の活用を含め移住希望者への情報提供を図りま す。							
					移住者数	102	20	15			80	土地取引価格の高騰や賃貸住宅物件の慢性的な供給不足といった状 況の中、白馬村空家等対策計画に基づき制度化した空き家・空き地バ ンク制度の運用等の移住定住施策に取組みます。							
				教育課	税務課	小中学校転入児童生徒数	17	31	24			20				海外からの来村者がコロナ禍以前に戻ったことに伴い、転入者や体験入 学の間合せが増加しています。今までは重国籍の混合世帯が多い状況で したが、R5年度からは外国人のみの世帯が増加傾向にあります。			
						新築住宅戸数（累計）	累計 316 (単年 43)	累計 362 (R4:46)	累計411 (R5:49)			380 (R1目標230 + (30棟×5 年))				R5に新築された住宅は49棟、そのうち共同住宅は5棟ありました。 新築住宅数は増加傾向です。			
				多文化共生	総務課	意見交換会開催回数	0	0	1			2				・公民館主催の多文化共生講座を行い、その中で意見交換会の機会を 設けました。 ・多文化共生社会の現状と課題を再調査・再認識しつつ、多様な住民グ ループ等との関わりと意見交換に取組みます。			
						英語版広報誌発行回数	12	12	12			12				引き続き広報はくばの発行に併せて英語版広報紙を発行していきます。			
				村外の白馬 ファンの活用	総務課	ふるさと白馬応援隊員数	79	79	89			80				隊員数は増加していますが、メールマガジンの発行に限られ、活動が停滞 しています。新たな形でのファンコミュニティのあり方を模索します。			
						隊員主催イベント回数	0	0	0			1				隊員主催のイベントは開催できませんでした。 組織のあり方も含めて検討します。			
						ふるさと納税返礼品取扱数	251	314	297			200				地場産基準の見直しにより取扱数が減少しましたが、寄附額は増加傾向 にあります。中間事業者と協力し、引き続き返礼品の新規商品開拓に努 めます。			

白馬村第5次総合計画 - 評価シート

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価
暮らし_安心して みんなが暮らせる 村	安心・安全の 生活を支える 村づくり	防災・減災 の強化	地域支え合 い支援	健康福祉 課 総務課	支え合いマップ作成地区	26	30	30			30	【健康福祉課】マップの有効性を理解していただく取組みを進めるほか、今後は定期的な更新が必要となることから、地区役員（区長・民生委員・消防団等）の把握している情報を十分反映させ、最適化に努めます。	3.2	「支え合いマップ」はそれなりの効果は出ているが、個人情報との絡みが厳しい。わざわざ「支え合いマップ」に落とさなくても「震災対応」はできると考えている住民は相当数存在する。何でも「マップ」と考えているのは行政関係者だけであり、景観と自由を求めて移住した方々には「マップ」は評判は良くない。「これを公式に行政が、作らなければならないとして行うのはおかしい」という意見を言う人もいる。他の自治体で行われているように、公式ではないが公式のようなイメージを与える社協が行なってはどうか。防災・減災上の観点から、居住者・事業者の連絡先等を把握し、災害時に備えて各地区への情報提供も重要と考える。 自主防災組織には区民だけが参加しているが、区未加入者や事業者の参加も必要ではないか。冬季は季節労働の外国人が増えることから、災害時に正確な情報が確実に伝達できるか不安。 防災白馬の無線放送が聞こえにくいとの苦情を多く聞く。 プッシュ式の情報発信を強化してほしい。 告知不足ではないか。 消防団ははじめ防災・減災に取組む皆さんの活動には敬意を表する。また、「砂防ありき」の言葉の重要性を実感する。多くの村民にそれらの活動が理解されるよう広報活動の強化を望む。 ペット同伴など避難所の再考をお願いしたい。 気候変動による災害の激化を前提に毛布やトイレ等の備蓄を整えてほしい。 地域の安全を早急に確保するために、土砂災害警戒区域等の災害対策や治山治水事業を積極的に国・県に要望し、予算を確保してほしい。 治山・治水事業の整備計画を公表できないか。 高齢者施設や教育機関は、安全性の高い場所に集約していく事が望ましい。（災害や交通量の少ない場所、災害時に救助しやすい場所など）	3.6
			防災・災害 情報の伝達	総務課	防災アプリダウンロード数	1,586	2,509	3,801			10,000	引き続き広報はくばや行政ホームページ、村SNS等で防災アプリの周知を図り、ダウンロード数の増加に努めます。様々な分野で導入しているアプリが増えてきたため、総合案内的な周知も検討します。			
			消防団活動	総務課	消防団協力事業所数	5	5	5			6	引き続き事業のメリットを提示しながら村内事業所へ周知を図り、新たな事業所登録につなげていきます。			
					消防団員応援ショップ登録店舗数	11	9	7			20	事業の周知を徹底し、消防団への理解、協力店舗の増加に努めます。			
			自主防災組 織	総務課	自主防災組織設立地区数	26	27	27			30	未設立の地区は残り3地区となりました。引き続き全地区で設立されるよう取組みを進めていきます。			
			村全体の防 災への取組 み	総務課	地震総合防災訓練等参加者数	0	0	149			300	初期消火訓練、煙・通報訓練、放水訓練など消防総合訓練を開催しました。新たな試みとして、白馬村消防団・北部消防署の消火・救助訓練を間近で見学いただき、災害現場の雰囲気を感じていただきました。			
					防災備蓄倉庫数	1	1	1			3	既存施設の利用なども検討します。			
			治山治水 (国庫、県単 関係)	建設課 農政課		北内山沢 治山 堰堤改修	松川支障木 伐採他 砂防施設整 備（青鬼 他）	県要望実施、 松川支障木 伐採、砂防施 設整備			-	【建設課】引き続き松川平川流域での砂防施設の長寿命化事業（国直轄）が行われた他、12月に発生した黒豆沢土砂災害対応のため長野県による応急対策事業（導流堤建設）が進められました。 【農政課】北内山沢治山堰堤改修は完了しました。継続し県要望を実施しました。			
		日常の住み よさの確保	もてなしの村 づくり	総務課	村有地の環境美化活動	2	2	3			2	熊の出没件数も多いことから、夏季において複数回草刈りを行い、美化に努めました。村民草刈りウィークに合わせて、村有地や公共施設の草刈り等を行い、環境美化に努めています。	3.3	「草刈り週間」は継続してさらに発展させてほしい。ただし、これにより観光客が増えたとしたら観光に従事している方達は意識を変えてほしい。 電動草刈機購入補助金制度は良い。一台あたりの単価は増やさなくても実質一世帯あたり一台への補助制度は長く継続してほしい。 美化に対する努力は見られるが、オーバーツーリズムは否めない。特に治安の悪化と無謀な運転が目立つ。条例の強化と公安との連携強化が必要。 地区役員の自動車に貼り付けるなど「防犯パトロール中」の掲示は続けたい。 外国人のマナーの悪さが目立つ。 外国人観光客の増加で交通事故の不安が増しているが、現在の活動はよくやっている。 オーバーツーリズムの被害は高齢者にしわ寄せが行っている。住民・高齢者への支援は別枠として考えるべき。 冬季間の夜間交通問題は劇的に改善した。深夜にタクシーに乗れなかった酒酔いの外国人が歩いて奇声や大声を聞くことが激減した。 インバウンドが増加する中で、デマンドタクシーの台数不足が生じている。村内外事業者の協力の下で台数確保に努めてほしい。 福祉の面で、ドアツードアの「ふれ愛号」より部分的にサービスが後退したが、前進したところもある。当初の高齢者対策・福祉対策の面での混乱は解決したと思われ、ある程度評価できる。 公共交通機関の拡充を望む。 観光地としてのインフラ整備を考えると、道路（路面）の破損が目立つ。 路盤の損傷が散見されるため、村道の維持補修をより計画的に進めてほしい。 松本糸魚川連絡道路の建設促進については、特に白馬村としてルート案を検討し県との協議を進めた方が良い。 可能であればゾーニングを推進し、定住地域・営業地域などすみわけ（若者団地など）も検討してほしい。高齢者施設や教育施設の統合を視野に入れて検討することが望ましい。	3.4
					地区の環境美化活動	60	60	60			60	地域づくり事業補助金の活用や集落支援員等による作業の支援を行っています。			
			地域防犯力 の向上	総務課	防犯パトロール回数	23	24	4			36	昨年度と同様に、コロナ禍の影響もあり目標に達しませんでした。引き続き関係機関と連携し目標回数に達するようパトロール実施に努めます。			
			交通安全の 推進	総務課	児童生徒の登校時における街頭指導回数	14	14	14			18	各地区の交通安全協会役員を中心に、年3回の交通安全運動期間中、14日間通学路に立ち、街頭指導を行いました。			
					交通安全啓発に係る広報無線の放送回数	90	90	90			24→90	交通安全運動実施月において期間中1日3回行政無線において広報を行いました。今後安全運動期間以外においても、随時情勢により無線放送を実施しています。			
			村内の移動 手段の確保	総務課	運転免許自主返納支援事業利用者数（累計）	121	136	154			250	目標数値には達していませんが、返納者は微増であり、返納者の乗合タクシー利用率も高いことから、制度の広報・周知に努めます。			
				観光課	ナイトシャトルバス利用実績	0	12,000	11,005			15,000	R4年度の実証運行時には無料運行、R5年度は有料（1乗車500円）で運行しましたが、無料時の92％程度の乗車人員を確保できました。更なる利便性の向上で目標の達成を目指します。			
				総務課 健康福祉 課 観光課 教育課	〈既存公共交通網のネットワーク向上〉神城駅、白馬駅の乗車人数の実績		231	271			現状維持	【観光課】大糸線活性化協議会等関係団体、JRと連携しさらなる利用者向上に努めます。			
					〈通年型観光を支援する公共交通の検討〉白馬サイクルフェスタの参加者数	0	200	267			現状以上	【観光課】9月のイベント開催日は雨天が多く、実績を低下させる要因となりました。			
					〈誰もが分かりやすい案内情報の提供〉解決すべき課題の中の「案内表記」						現状軽減	【観光課】白馬バレーツーリズムの景観デザインコード計画で統一看板を制作しています。			
					〈村民との協働機会の創出〉地域公共交通会議の開催	1回	0回	3回			1回以上	【観光課】R6.4月から試験運行、6月から本格運行を開始するAIデマンドタクシー「ふれAI号」について、観光ナイトデマンドタクシーとふれ愛号の統合を検討するなど、網計画にあるリデザインを実施しました。			
			生活と観光 と医療のため の道路整備	建設課	インフラ長寿命化点検済施設数	橋梁点検 18橋 修繕工事 5橋	橋梁点検数 88橋 修繕工事数3 橋	第3期橋梁長 寿命化計画 策定			107	R5年度は第3期橋梁長寿命化計画を策定しました。この計画に基づいて今後5年の間に全107橋の点検と危険度の応じたメンテナンス工事を行います。			
			安全な住宅 の提供	建設課 総務課	村営住宅戸数	24	24	24			24	【建設課】全24戸の村営住宅について引き続き適正管理に努めています。（施設の増減はなし）			
					木造耐震診断・耐震改修補助件数	0	0	0			1	耐震診断について相談はあるものの、制度の性格に適合しているものではなく、診断対象ではない建物のためR5年度は実施していません。			
			まちづくりマ スタープランに よる土地利 用計画	建設課	都市計画マスタープランの見直し		都市計画マ スタープランの見 直し（策定）	-			計画見直し	R4年度に見直し作業は完了しました。			
			地籍調査の 推進	農政課	地籍調査済面積（ha）	8.47	6	0			8.6	北城24区（八方）11haの登記を予定していましたが、R6.1月発生の能登半島地震の影響に基準点が7cm北西に移動したため事業が翌年度繰越になりました。			

白馬村第5次総合計画 - 評価シート

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価
暮らし__安心して みんなが暮らせる 村	支え合う福祉 と健康の村づく り	子育て支援	安全な妊 娠・出産への 支援	子育て支 援課	合計特殊出生率	1.15	1.33	1.71			1.15	R5年度は近年の中では高くなりました。(単年度の値は白馬村独自のもので、国の公式発表は5年平均値で、直近H30～R4は、白馬村1.39です。)	3.9	子育て世代の夫婦が共に働ける環境づくりは重要。 子育て世代に選ばれるような環境整備、子育て支援の充実に努めてほしい。 「子どもにやさしい村」という実績をつくり、移住者増につなげてほしい。 かなり充実してきているが、小規模自営業者と共稼ぎ世帯が多い地域であるためさらに充実していくことが望ましい。 絶対的なハード不足。人口1万人規模の自治体には「母子保健センター」が普通にある時代になっているため検討してほしい。 シニア世代が孫を遊ばせられる公園を村内各地に整備してほしい。 子育て支援のマンパワー不足解消の施策が重要。	3.9
					妊婦基本健診受診率	100.0%	100.0%	100.0%			100%	全員の受診が図られています。			
					不妊治療費助成件数	7	6	10			4	利用者は増加傾向です。			
					年間出生数（累計）	40	38	52			220 (44×5年間)	R5年度は近年の中では増加しました。両親が外国人の割合が増加傾向です。			
					新生児訪問実施割合	88.9%	97.4	92.9%			90%	伴走型相談支援の一環として、海外出産等を除いて全戸訪問しています。			
					小児科オンライン登録者数	245	258	269			200	新規登録者は11人です。毎年10～15人程度増加しています。			
					産婦人科オンライン登録者数	13	16	29			20	登録者は増加傾向です。受診すべきかの判断や体調不安の疑問で利用されています。			
			安心して産 み育てること ができる医 療体制の維 持・充実	健康福祉 課 子育て支 援課	平日夜間救急医療事業箇所数	0	0	0			維持	【健康福祉課】新型コロナウイルス感染症対応により、R2.4月より休診となり、R4.3月で廃院となりました。現在はあづみ病院と市立大町総合病院の救急外来で対応しています。			
					大北圏域産科医数	1→0	0	0			1	大北松本地域出産子育て安心ネットワークに加入し、安心・安全に出産できる環境を整えます。 また、分娩の再開について、広域的に働きかけます。			
			子育てに関 する交流や 相談の場づく り	子育て支 援課	"なかよし広場"利用者数	116	656	652			1,300	昨年と同程度の方が利用されています。食育活動、育児相談、リフレッシュ講座、イベント等を例年より増やしました。0～2歳児の親子が触れ合える場として利用しやすい環境づくりに努め、年齢層に合った子育て援助ができるよう努めます。			
					"自由利用"利用者数	794	1,240	1041			1,200	広い空間で遊ばせたい方や息抜きの場として利用していただいています。 自由に遊べて育児の疲れを癒せるような場所の提供を継続していきます。			
					子育て支援センター相談件数	318	287	240			700	育児相談・発達・学校生活の順に多くなっています。妊娠期からの継続的なフォローにより、出産後家庭で育児をしている方の相談機会も多く、相談しやすいさも件数が増えていると思われます。就園期間は園への相談が多いようです。			
					子育て支援アプリ「おひさまメモリーズby母子モ」登録者数	246	267	300			250	妊娠届や2ヶ月育児相談の際に案内し、ほとんどの方が登録しています。			
		子育て家庭 への経済的 支援	健康福祉 課→ 子育て支 援課	子育て支 援課	小児インフルエンザワクチン助成	613	528	488			1,000	コロナ禍後、ワクチン接種自体に懐疑的になっている声も聞かれ、小児インフルエンザワクチンに限らず、外国人も含め、ワクチンを受けないという選択をする家庭が増えています。			
					子育て家庭優待バスポート協賛店舗数	31	32	34			33	協力店は増加していますが、広報等による積極的な周知活動による協力店舗の更なる拡大に努めます。			
		子育てと仕 事の両立支 援	子育て支 援課	子育て支 援課	休日保育利用者数	189	325	399			400	観光産業が盛んな本村では、休日・祝日保育は必要とされています。通常勤務の保育士が交代で業務していますが、引き続き保育士確保に努め、事業を継続します。			
					放課後児童クラブ利用者数	427	551	583			470	共働き世帯や自営業世帯が多いため、年間を通して利用希望が多く、特に観光繁忙期の長期休暇は利用者が増加します。今後も継続的に運営できるよう指導員確保にも努めます。			
		障がい児支援	健康福祉課	児童通所サービス利用者数	50	51	57			40	必要な人がサービスを確実に利用できることを重視し、全利用者の計画相談をもとに必要なサービスを実施しています。現在は目標を超える人数が利用しています。	3.9			
		地域における自立生活の支援	健康福祉課	障害福祉サービス利用者数	47	46	46			55	必要な人がサービスを確実に利用できることを重視し、全利用者の計画相談をもとに必要なサービスを実施します。				
				共同生活支援支給決定者数	17	18	21			17	必要な人がサービスを確実に利用できることを重視し、全利用者の計画相談をもとに必要なサービスを実施します。現在は目標を超える人数が利用しています。				
				地域移行支援利用者数	1	0	0			1	R5年度は申請がありませんでした。				
				日常生活支援用具給付件数	168	146	176			180	必要な人がサービスを確実に利用できることを重視し、希望者の要望に合わせ支援します。				
				日中一時支援事業利用件数	188	278	466			300	必要な人がサービスを確実に利用できることを重視し、希望者が希望通りに使えるよう支援しています。現在は目標を超える件数利用されています。				
		社会参加の促進と就労支援	健康福祉課	法定雇用率達成企業数	3	3	2			2	障がい者の就労に関する理解促進に努めて、達成企業数増加を目指します。				
				障害者優先調達推進法調達額	660,175	736,272	1,018,544			500,000	取扱品目の拡大について検討いただいています。現状維持の状況です。				
		権利擁護の体制づくり	健康福祉課	成年後見制度利用支援事業	0	0	0			1	R5年度は申請がありませんでした。				
		人にやさしいまちづくりの推進	健康福祉課 建設課 総務課	居宅生活動作補助用具支給件数	0	0	0			1	【健康福祉課】R5年度は申請がありませんでした。				
				地域福祉総合助成事業住宅改修件数	3	2	0			3	【健康福祉課】R5年度は申請がありませんでした。				
				通訳者派遣利用回数	12	10	11			17	希望者の要望に沿って実施していきます。				

白馬村第5次総合計画 - 評価シート

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価
暮らし__安心して みんなが暮らせる 村	支え合う福祉 と健康の村づく り	高齢者福 祉	地域包括ケ アシステムの 構築	健康福祉 課	介護予防取組みグループ数	17	16	15			25	地区公民館を中心に展開してきた体操教室は、参加者の高齢化、講師派遣事業所のスタッフ不足等により、グループ数、参加者数ともに減少傾向にあります。地域のニーズを踏まえ、別の形を含めて検討していきます。	3.7	高齢化が進む中で健康増進に取り組んでいる現状は良いと思う。できるだけ寝たきり状態にさせない介護予防に注力してほしい。 介護予防の様々な事業を実施してほしい。参加者数を単に伸ばすのではなく、引きこもり高齢世帯を無くすことに力を入れてはどうか。 高齢化が進む中で、村として対策を考え実行してほしい。 デマンドタクシーは地域課題解決に向けた施策の実行に期待する。 ふれAI号になって高齢者や障がい者の利用状況や満足度について検証してほしい。 マンパワー不足と財政難克服のためのアイデアが必要であり、観光では有名だが弱小自治体である白馬ではボランティアで不足するマンパワーを補うという発想はありえない。根本的な施策を構築する必要がある。 母子保健センター、健康福祉センター、高齢者センター的な箱物ではあるが希望する人は少なくない。	3.5
					介護予防事業参加者数	6,031	4,233	3,432			7,000	地区公民館を中心に展開してきた体操教室は、参加者の高齢化、講師派遣事業所のスタッフ不足等により、グループ数、参加者数ともに減少傾向にあります。地域のニーズを踏まえ、別の形を含めて検討していきます。			
					地域ケア会議開催回数	5	6	5			6	介護保険事業所、医療機関、歯科医院、薬局、行政等関係者による定期開催ができています。地域課題の抽出や共有はできていますが、施策化まで展開できていません。			
			生活支援 サービスの体 制整備	健康福祉 課	配食サービス食数	3,555	2,804	2,387			3,000	コロナ禍が明けたことで、高齢者の外出が増えたほか、当サービスより安価で配達を行う民間事業者の営業努力により減少しています。高齢者のみならず、障がい者の利用や、所得要件の見直しを検討します。			
					乗合タクシー利用者数	6,662	7,447	7255			9,000	福祉施策から公共交通へ移行を行うため、6月より年齢制限（50歳以上）を撤廃しましたが、利用者は減少しています。R6より公共交通施策として運行しています。			
			高齢者の生 きがいきづ くり	健康福祉 課	白馬シニアクラブ会員数	1,280	1,280	1,291			1,300	コロナ禍が明け、健康増進事業（マレットゴルフ、スマイルボウリング、男性の料理教室など）や環境美化活動が実施され、高齢者の生きがいきづくりに大いに貢献しています。			
					シルバー人材センター登録者数	560	571	549			700	目標値は北アルプス管内の会員数ですが、白馬村に限ると前年より4名増の58名となっています。また、受注金額実績も前年より増額となっています。（+2,063千円）			
			認知症対 策・権利擁 護の推進	健康福祉 課	認知症サポーター数	1,359	1,539	1,774			1,500	経年的に小学校4年生、中学3年生に実施する体制ができました。民生委員会や健康づくり推進員などの関係機関の他に、家族を中心とする個別単位でも実施しました。			
		健康づくりと 地域医療の 充実	生活習慣病 予防の推進	健康福祉 課	特定健診受診率	52.8% (速報値)	52.7% (速報値)	51.1% (速報値)			60.0%	【健康福祉課】R5年度の速報値は51.1%です。コロナ禍の影響で低迷していますが、目標60%を目指します。	3.6	村民の健康に対する意識は高まりつつあると感じるが、介護士や看護師の人材不足を不安に感じる。 歯科医院の減少が気になる。 白馬診療所の改修・拡充など村内医療機関の充実に期待する。 地域医療全体の充実に努めてほしい。 今後さらなる高齢化社会の訪れに対して、高齢者の活躍する場所や機会を創ってほしい。 保健行政と地域の診療所と総合病院との連携を期待する。 冬季の診療不足解消に引き続き腐心する。 外国人対応ができる人材の確保。	3.7
				住民課	特定保健補導指導率	67.7% (速報値)	59% (速報値)	53.9% (速報値)			75.0%	【健康福祉課】R5年度の速報値は53.9%です。コロナ禍の影響もあり減少傾向です。目標達成を目指します。			
			食育の推進	健康福祉 課 教育課 農政課	食育ボランティア登録者数	29名	25	21			30	【健康福祉課】R5年度新規登録者は2名で、仕事を退職後に加入いただきました。一方で、高齢化や家族の事情等で退会される方も増えています。今後、白馬村赤十字奉仕団への声掛け等を行い、新規会員登録に努めます。			
			地域医療体 制の確保	健康福祉 課	平日夜間救急医療事業実施日数	0	0	0			維持	新型コロナウイルス感染症対応により、R2.4月より休診となり、受診者の減少によりR4.3月で廃院となりました。現在はあづみ病院と市立大町総合病院の救急外来で対応しています。			
					平日夜間救急医療事業患者数	0	0	0			維持				
					在宅当番医制度事業実施日数	延べ214日	213	217			維持	北部・中部・北部の3ブロックに在宅当番医を置き、救急緊急の医療応需体制の確保と充実を図り、医療業務を実施しました。			
					在宅歯科当番医事業実施日数	延べ72日	72	73			維持	H18年度より在宅当番医を置き、緊急の医療体制の確保と充実を図り医療業務を実施しました。			
					スキー傷害診療実施日数	38日	37	38			維持	他に類を見ない本村のスキー傷害診療体制を索道事業者協議会、受託医療機関の理解のもと維持することができました。			
					スキー傷害診療患者数	625名	941	789			維持	患者数の減少は大きな課題のスタッフ不足によるもので、12月から白馬インターナショナルクリニック(HIC)の新規開設の影響と考えられますが、HICとしては今季以上の患者受入れは困難とのことです。			
					医療従事者数(看護師・准看護師)	57	57	60			70	R4公表分。看護師等の数は、村内医療機関の数に対し横ばいで看護師等の不足は恒常化しています。住居不足も主な要因のひとつです。			
					介護人材育成講座受験者数(累計)	42	3	49			50	R5年度は4名に受講いただきました。受講後に地域で活動している方から経験談を話していただく機会を設けました。送迎サービスへの意欲を持った方もいましたが、立ち上げまでに至りませんでした。			
	自立的・効率的で健全な行政の村づくり	情報通信 技術の活用	個人番号 カードの普及 及び活用による住民 サービス向上	住民課	個人番号カード交付率	42%	67%	66%			30%	R5年度は、R4年度に続き木曜夜間と第2土曜の時間外窓口体制を維持しました。また、総合窓口において申請サポートを実施しました。（火曜・木曜の午後） ※交付率は、成果説明書に合わせ、総務省公表の保有枚数率（交付枚数から死亡や有効期限切れ等により廃止されたカードの枚数を除いた保有枚数をもとに算出）を採用	3.6	DXが進むのは良いが、すべての村民が対応できるか疑問。システム導入時には丁寧な説明を望む。 個人番号カードの交付による業務の効率化は実際に進んでいるのか。 積極的にRPAやDXを進めてもらいたいのが、それ以前に必要なのが職員のリーガルマインドと課題発見・課題解決能力、住民の視点と住民に備わっていない視点を把握する力だと思われる。	3.3
					システム・基盤等の共同調達	3件	5件	6件			4件	単独調達ではありますが、勤怠管理システムの導入により、職員給与の一元管理を含む勤怠管理全般のシステム化を構築し、業務の効率化、ペーパーレス化の推進、勤務実態可視化等を実現しました。			
			システム・基盤等の共同調達やRPA導入による業務効率化	総務課	業務へのRPA	1件	1件	0件			2件	これまで使用していた、ふるさと納税業務におけるRPAについては、使用システムの移行に伴い運用を終了しました。 R6年度よりRPA移行可能な業務の洗い出し作業をDX推進チームにより検討を進めており、業務効率と費用対効果、及び財政状況を見極めつつ導入可否を決定します。			

白馬村第5次総合計画 - 評価シート

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価
暮らし__安心して みんなが暮らせる 村	自立的・効率的で健全な行 財政の村づくり	行財政改 革の推進	魅力ある人材の確保と 計画的・効果的な職員 研修	総務課	職員研修受講数	42	76	271			130	コロナ禍が明けてもオンライン研修の普及により気軽に受講できるようになり、研修者の増の傾向が続いています。 また多人数対象の全体研修も増えてきました。引き続き対面・オンラインの良いところを生かしながら職員のスキルアップにつなげます。	3.6	優秀な人材こそが村の財産であるため、人材育成には注力していただきたい。 財政についてはオーバーツーリズムの対策にも関連して新たな財源獲得を検討するべき。 職員研修の徹底による職員のレベルアップに期待する。 接遇研修を継続的に実施するとともに、秘書検定等の民間資格の取得制度を検討してはどうか。座学では限界があるため、都市銀行などの接遇や秘書的業務に定評のある職場へ研修派遣する組織内制度が必要と思われる。 人件費と人件費に相当する物件費を見直すために、組織全体の仕事の量的・質的な見直しを行うことが健全財政に繋がる。	3.1
					インターンシップ受入人数	0	0	1			10	コロナ禍後、初のインターンシップ受入となりました。その後、インターンシップ生は役場の採用試験を受験し、人事採用につなげることができました。			
			財政健全化	総務課	実質公債費比率	13.1%	14.3%	15.6%			15.0%未満	元利償還金の増加により、単年度数値が15.6%まで悪化しました。今後元利償還金の高止まりが予想されるため、R6年度に一部繰上償還し、健全財政の維持に努めます。			
					将来負担比率	40.0%	21.7%	4.7%			85.0%未満	地方債現在高の減や基金残高の増により、前年度と比較して17.0ポイント減で大幅に改善しました。引き続き持続可能な財政運営に努めます。			
			税務課		村税現年課税徴収率	98.3 98.5	98.6	98.6			98.5%	村税滞納整理マニュアルに基づき、納期ごとの催告や早期の滞納処分を行っているほか、コロナ禍が明けたことによりインバウンド観光が回復し、観光・宿泊業における業績の復調が納付につながったこともあります。			
産業__新しい仕事を つくりだす村	「世界水準」を意識した観光 の村づくり	競争力と持続可能性を 高める観光地経営	白馬連峰への眺望の魅力 最大化	観光課 総務課	眺望スポットの抽出	8	8	8			10箇所	R3年度に選定済です。	3.6	観光産業についてはコロナ前（あるいはコロナ前以上）の水準に戻り、村内企業の業績も上向きに転じていると聞いている。行政としては新しい産業の創生や支援にシフトしても良いのではないかと考えている。外国人観光客の増加に伴い、ハード・ソフト両面での受入環境整備が追いついていない。様々な対策が必要。 観光地継続マネジメント（DCM）に併せて企業のBCPの策定を促す取り組みも必要ではないかと考えている。世界水準の観光地としての取り組みはできていない。グリーンシーズンのプロモーション、受入環境の整備を進めてほしい。 滞在型観光の推進と言われて50年が経過しているが、ほとんどが空間的にも時間的にも一過性の域を出ない観光になっている。景観の魅力は属人的要素が強く、そこからの脱却を図る振興策を立ててほしい。	3.7
			スキー場と宿泊拠点の再 生	観光課	ウィンターシーズン(12-3月) 観光客数（万人）	75	84	128			150	感染症の5 類移行により、行動制限も無くなり冬期観光客数は完全にコロナ前の水準に戻りました。インバウンドの増加によりR7年度の目標達成を見込んでいます。			
			国際リゾートに 相応しい受入環境整備	観光課 総務課	危機管理マニュアルの構築						白馬村観光地継続マネジメント（DCM）の策定	【観光課】 R2.3月に白馬村観光防災マニュアルを策定済です。			
			魅力の多様化に向けたコ ンテンツ創出	観光課	グリーンシーズン(4-11月) 観光客数（万人）	82	119	130			130	白馬岩岳マウンテンハーバーの新アクティビティやサイクルツーリズムの牽引に加え、感染症の5 類移行によりグリーンシーズン期の来訪者が増加しており、年間観光客の平準化は更に進むものと見込んでいます。			
			観光業の活性化・平準化による安 定的な雇用創出	観光課	地域未来牽引事業者の新規雇 用者数の累計	30	36	36			75	事業者の新規雇用は現状維持の状況となっています。			
			地域特性を活かしたス ポーツツーリズムの推進	生涯学習 スポーツ課	白馬ジャンプ競技場リフト乗車人数	33,528	45,985	43,619			83,000	対前年比はほぼ横ばいとなっています。 ジャンプ選手の層も厚くなってきていることから、オリンピック等で結果が出てくれば自ずと乗車数も伸びて来ると予想します。			
					スノーハーブクロスカントリー大会出場者数	0	1,600	1,700			2,300	2,000人を上回るコロナ前の参加者確保が目標です。			
					スノーハーブマウンテンバイク大会参加者数	0	250	280			250	全国から参加のある小学生から高校生までのレベルの高い大会となっています。			
			観光施設の維持管理	観光課	老朽化施設等の修繕工事						2 箇所	【観光課】HAKUBAVALLEY WiFiをエコーランド、八方文化会館、ウイング21、白馬駅前、役場に整備しましたが、機器更新時期を超過しており現状維持が困難な状況です。			
			広域観光の取り組み	観光課	エリア観光客延べ宿泊者数	174.5	2,510	3,158			3,066千人	コロナ禍からの回復が顕著で、エリア内で白馬村が前年度比124%、小谷村が183%と好調で、全体数値を押し上げています。			

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価
産業__新しい仕事 をつくりだす村	農地と森を守 り地産を活か す村づくり	優良農地の 保全	里山環境の 保全	農政課	耕作放棄地面積(ha) A分類（再生可能） B分類（再生困難）	A分類 (再生可能) 約12.9ha B分類 (再生困難) 約21.0ha	A分類 (再生可能) 約15.2ha B分類 (再生困難) 約18.0ha	A分類 (再生可能) 約12.5ha B分類 (再生困難) 約20.1ha			8.2ha→ A分類 (再生可能) 8.2ha B分類 (再生困難) 18.0ha	ハード面では北城南部は場整備により、優良農地確保に取り組み、ソフト面では農業振興地域整備計画の総合見直しに着手しました。	3.3	耕作放棄地や投資目的の農地転売には疑問を感じる。住宅供給（定住支援）と連携した新たな就農支援を望む。 農業の担い手、後継者育成にも力を入れてほしい。 農地保全が観光に繋がると言う割には観光関係からのバックが少ないように思われる。助成金で農業が成り立っていることは確かであるが、税等が助成金の財源であり観光関係からの支援は少ない。 充電式電動草刈機等購入補助金制度は継続してほしい。補助金交付台帳の整備が必要。 農地使用料は当事者間で決定することと表記されているが、そのことを行政では農業者に強く指導する方がいいと思う。 行政は農業者に特別な感情を持つ必要はない。 圃場整備の推進に期待する。 サルの出没が増加し、人里で目にする機会が増えた。生息状況の調査と捕獲計画を進めてほしい。 クマ等の鳥獣対策のためにも里山整備が必要。	3.4
					多面的機能支払交付金取組面積（農地維持）(ha)	427.39	456.25	456.25			436 465.69	R5は5か年の最終年度でした。R7目標数値を上方修正します。			
			農業施設の 維持管理	農政課	多面的機能支払交付金対象面積（長寿命化）(ha)	400.52	436.59	429.38			409 438.83	R5は5か年の最終年度でした。R7目標数値を上方修正します。			
					北城南部地区ほ場整備面積（ha） 新規地区―(新田地区→北城北部地区)―ほ場整備面積（ha）	40.8 52.1	40.8 49.9	40.8 49.9			40.8 52 35	事業主体は長野県で、村は地元との調整役です。3-4工区の工事中です。 所有者アンケート結果に基づき、R7目標数値を下方修正します。			
			認定農業者 への支援	農政課	村単農業機械等購入補助件数（累計）	44	52	農業機械61 充電式草刈機等22			30 120	一般農業者向け充電式草刈機等補助金を創設しました。R7目標数値を上方修正します。			
					認定農業者（担い手）への農地利用集積面積（ha）	432	437	442			490	認定農業者への農地利用集積率は約79%です。大規模3法人への集積も限界を迎え、他の担い手への集積が課題です。			
					認定農業者数	40	40	45			35 43	認定農業者は増加しています。R7目標数値を上方修正します。			
			就農体験の 機会づくり	農政課	ふれあい農場及び市民農園面積	3,831	3,146	3,164			1,900㎡ → 3,831㎡	白馬高校付近に“市民農園はくば”を12区画設置しました。			
					有害鳥獣対策	農産物被害額（万円）	57	50	50		50	クマやサルの目撃が増加傾向です。サルは人馴れしてきています。緩衝帯整備と有害鳥獣実施隊による駆除に努めます。			
						電気柵資材購入補助件数（個人向け）	11	12	12		10 15	有害鳥獣個体数増加に伴い補助金拡充を望む意見があります。R7目標数値を上方修正します。			
	農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進	農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進	米の品質向上・ブランド化	農政課	白馬産ブランド米生産農家数→信州の環境にやさしい農産物認証制度取得農家数	17	17	環境認証 15 有機JAS 2			10 17	国の「みどりの食料システム戦略」に基づき、有機JAS、オーガニックビレッジの研究を進めます。	3.5	白馬のお米は全国的にも有名になってきているため、徹底的に注力してほしい。 農産物には季節（旬）があるため、地元産の農産物を使った加工食品などへの転用を推進できないか。加工工場の誘致、支援も事業化を検討してほしい。 収穫時以外の時期にも白馬ブランドを加工品でもいので開発してほしい。 ミニトマト以外に特産品（農作物）はないものか。	3.8
					紫米消費量（t）	7	8.3	7			8	生産者が1名になり、生産量が減少しました。 ※指標を消費量から生産量へ変更しました。			
			特産品の生産・販売強化	農政課	特産品販売面積（ha） （紫米、ブルーベリー、食用ほおづき、特産野菜、ミニトマト、加工トマト）	8.2	12.1	12.8			10	高収益作物への転換が課題です。紫米1.3ha、ブルーベリー2ha、食用ほおづき60a、その他園芸品8.9ha。			
					道の駅販売品収入額→村内直売所数	7	8	8			300 7	民間主体の指標です。目標は現状維持です。			
			地産地消の推進	農政課	地場産品売上高（万円）→道の駅白馬ろまん市農産物直売所売上（万円）	2,200	3,900	3,795			2,600	売り上げは好調です。			
					ふるさと納税を活用した特産品のPR	58	75	66			50	地場産基準の見直しにより返礼品取扱なしとなった事業所があるため減少しましたが、寄附額は増加傾向です。観光局と協力して新規開拓に努めます。			
	農地と森を守り地産を活かす村づくり	森林の整備と活用	森林整備地域活動支援	農政課	森林整備面積（公共造林事業）（ha）	33	30	37			60	今後も事業体と連携し森林整備を進める予定ですが、予算と事業体の実施可能面積には限りがあります。 公共造林事業：飯田飯森地区搬出間伐15.5ha（山仕事創造舎）、森林経営管理制度：内山地区2ha（山仕事創造舎）、木流川周辺緩衝帯整備2.5ha(北アルプス森林組合)、堀之内・大出村有地下刈4ha（林業経営者協会）、八方緩衝帯整備2ha（林業経営者協会）	3.0	森林整備は積極的員進めてほしい。 美しい景観や有害鳥獣対策の視点からも、森林整備計画の整備目標が達成できるよう努めてほしい。 すべてを観光に結びつける思考が観光の発展を阻害することになるかもしれないが、「美しい」森林景観は積極的に進めてほしい。個人負担を求める難しさは理解するが、それが正論だと思う。 林業で経営を成り立たせるのは難しいと思うが、森林に親しむことや森林の重要性などの啓発活動は引き続き推進してほしい。 大北地区のペレットは品質が高いという評判を聞く。 ナラ枯れに対しての施策が何もなく、対策もできていないのではないか。 景観も地域の重要な資源であるため、ナラ枯れ対策は必要ではないか。	2.9
					公共施設への木質バイオマス暖房設備導入施設数	1	2	2			1か所 2か所	役場村民ホール、農業体験実習館に導入済です。他課の公共施設の暖房器具更新の際は調整を図ります。			
			森林資源とふれあう機会の創出	農政課 観光課	木流川観察会開催数	1	1	3			年 4 回	【農政課】民間団体と連携し、開催しました。			
					みどりの少年団交流集会開催数	0	0	2			年 4 回	【農政課】白馬南小学校、北小学校が参加しました。			
			新しいしごとの創出	総務課	森林の里親促進事業交流会開催数	0		—			2	—			
					村内コワーキングスペース施設数	2	2	3			10	コロナ禍でニーズが高まり、民間事業者の取組も増加傾向にあります。			
商工業の振興により雇用を生み出す村づくり	商工振興・創業支援	商工振興	観光課	観光課	小規模事業者経営改善資金助成金額（万円）	19	9	27			170	借入の多くはコロナ関連資金を利用しており、マル経資金の新規利用は僅少です。	2.9	白馬村で多くの創業者が出ることを望む。 観光関連だけでなく、新たな事業が生まれるよう支援を継続してほしい。 後継者不足が顕在化している中で、事業承継支援や創業支援を関係機関と連携して進めてほしい。 効果が見えない。 商工会の創業塾への支援事業は累計事業費が1億円となるのを機会に見直しはどうか。	2.7
					創業支援と空き店舗活用支援、後継者支援	6	7	8			増加累計 20件	創業支援事業計画に基づき、白馬商工会と創業塾を開催、創業塾修了者のうち8名が起業しました。			
			新しいしごとの創出	総務課	店舗後継者数	0	0	0			増加累計 5人	県・商工会と連携し事業承継のアンケートを基にカウンセリングを行い承継者の増進を図ります。			
					ふるさと起業家支援事業を活用した起業家数（累計）	1	1	1			5	制度を活用いただけるよう、周知に努めます。			
民間活力を活かす村づくり	産官学金労言連携	大学・企業等との連携		総務課・観光課・健康福祉課・農政課・教育課	連携協定に基づき進行中の事業	6	6	7			5	【健康福祉課】健診時や健康相談会における健康チェックを共同実施しています。 【観光課】観光課題の解決につなげる協定事業の実現に向けて、引き続き連携機関との事業協調や調整を進めます。 【総務課】様々な分野で連携事業を検討・実施しています。官民連携による効果的な事業について引き続き検討していきます。	2.3	ビジネス関連が多くなると思うが、スポーツ・文化・芸術等について大学の研究室との連携などができないか。 健康福祉課以外の課の連携事業の内容がわからない。 効果が見えない。 どの部門でも協定の内容が可視化されていないし、紹介も説明もされていない。	2.8

白馬村第5次総合計画 - 評価シート

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価				
ひと 一人ひとりが 成長し活躍できる 村	学びあい育て あう村づくり	次代を担う 子どもたちの 学習支援	「自ら学び、 自ら考える 力」と「生きる 力」の育成	教育課	中学校情報端末活用生徒数 (延べ)	206	285	229			1,100	新型コロナウイルス感染症の流行により1人1台の情報端末を前倒して整備しました。当初の設定目標は、中学生になり情報系端末を活用する延べ人数としていましたが、実情にそぐわない状況になっているため、次期総合計画では目標設定を見直します。	3.0	少子化の影響も否めないが、効率化により教育レベルの引き上げを望む。 少子化だからこそきめ細やかな指導をしてほしい。 学校の統廃合や小中一貫校なども教育レベルの引き上げが目的ならば村民の理解も得られやすいのではないか。村や県との管轄違いがあり難しいと思うが、効率化の推進のためにも小中高一貫校も視野に入れるような大胆なアイデアを望む。 アフターコロナに向けた次のステップの施策を求める。 学力偏重主義は良くないことは承知しているが、義務教育の学力不足が心配である。児童生徒の生活環境に観光地特有の俗的な面があるので教育環境を充実することが人材育成としては重要。 導入端末の更新状況はどうなっているのか心配。 PC・ITC関連の活用能力と学力とは相関関係はないと思われるが、義務教育までは学力や想像力、創造力の醸成を養う環境であることが望ましい。 小さな自治体で人口も少ないが学習ボランティアの充実は素晴らしい。 給食の地場産品の使用量増加を望む。 白馬高校の全国募集は地域校維持のために必要であるが、地元の生徒を増やす取り組みが必要。 スキーを続ける生徒も地域外に流出している。	3.3				
					小学校情報端末活用児童数 (延べ)	396	461	514			690	小中学校の1人1台端末を実現し、定期的な更新を行いながら順次ネットワーク環境も整え、低学年でも使えるソフトも導入して、児童生徒の端末利用率は上昇しています。							
			地域に開 かれた学校づく り	教育課	学習ボランティア登録数	24	24	19			3校 計 100名	R5年度は、事情によりボランティアを辞められた方などがあったため人数は減少しました。コーディネーターと連携して小学校でもボランティア登録をR6年度から取り組んでおり、今後は増加する見込みです。							
					子どもを守る安心の家登録数	92	92	91			95箇所	転出等もあり減少が新規登録を上回り登録数は減っていますが、引き続き協力を依頼していきます。							
			安心・安全 な学習環境 づくり	教育課	地場産食材の使用率 野菜・果物・きのこ類	52% 11%	39% 13%	30% 10%			長野県産比率 60% (うち、白馬産 比率13%)	主食は保存できるため100%白馬村産となっていますが、野菜等について通年生産が難しいため、白菜・根菜類でも年内ではほぼ納品が終わってしまい、地場産率の向上が難しい状況です。使用率は重量で算定するため、重い農産物の使用量が減ると使用率は大きく減少します。							
					地域を担う 人材の育成	総務課 (白馬高 支援)	しろうま学舎塾生数	31	26	27		60				大学進学を見据えた特進クラスからは、立教大学に合格する塾生も誕生し、徐々に成果が出始めています。学び直し・資格取得のサポートもアピールしながら、塾生をより幅広く募集していきます。			
							他県からの入学者数	8	5	10		20				東京・名古屋・大阪における対面の学校説明会の他、オンライン説明会やPVの活用、他県中学校の訪問等、より多くの中学生に白馬高校の魅力を伝えることを意識して活動してきたことが、増加につながっていると思われる。			
			総務課	ふるさと人材奨学金返還補助対象者数(累計)	4	4	5		8	白馬高校生を中心に周知を行っていますが、卒業生への周知も検討し、活用を図っていきます。									
		自己実現を 目指す生涯 学習と青少 年育成	限らない向 上心を支え る生涯学習	生涯学習 スポーツ課	講座開催回数(のべ)	61	78	71		60	浴衣の着付け教室を新たに開講しました。幅広い年代を対象に、生きがいづくりのための生涯学習の推進を引き続き図っていきます。	3.3	新たな図書館の早期着工に期待する。 図書館の建設を進めてほしい。 新しい図書館について、方針を住民に説明してほしい。 村内の芸術(美術工芸)作品の展示を随時行ってほしい。 青少年の育成に注力していただきたい。図書館事業も青少年育成に絡めて検討してほしい。 生涯学習と文化芸術振興はとてよく行われている。	3.4					
					講座受講者数(のべ)	651	732	767		1,200									
				図書館の充 実	生涯学習 スポーツ課	図書館来場者数(延べ)	8,741	9,398	10,780		30,000				図書館システムの入替えにより開館日数が7日間短くなりましたが、昨年よりも増加しています。目標にはまだ及ばないため、引き続きイベントの開催や広報周知等、積極的な利用促進を図ります。				
				人権教育の 推進	生涯学習 スポーツ 課・ 住民課						【生スポ課】外国籍住民に参加いただき、多文化共生に関するグループワークを行いました。また、青少年育成村民大会では、湯浅誠氏に居場所づくりをテーマに講演いただきました。 【住民課】コロナ5類移行により数年ぶりにしろうま保育園で児童向けの人権教室を開催しました。								
				文化・芸術 の振興	生涯学習 スポーツ課	コンサート等入場者数(延べ)	1400	1053	1,650		1,250				ウイング21開館25周年にあたり、記念コンサート等を開催し、多くの方に鑑賞いただきました。				
	生涯にわたりス ポーツに親しむ 村づくり	スポーツによる 健康づくり と活力の創 造	スポーツによる 健康増進	生涯学習 スポーツ課	週1日以上スポーツをする人の割合	49%	-	-		46%	R6年度に、アンケートを実施し実績値を求めるとします。	2.6	部活動の地域移行への対応の遅れが気がかり。 「地域の子どもは学校を含めて地域で育てる」の理念を持ち、受け皿となる地域クラブの充実と支援事業の充実を望む。 スポーツの必要性について、子どもたちにしっかり伝えてほしい。 索道事業者との連携をもっと深めてほしい。 スキー以外には特に目立った活動が少ないのは地域的に仕方がないが、バレーボールやバスケットボール、器械体操、卓球といった分野でも伸びがあっても良いのではないかと思う。かつては、水泳、卓球といった地域的に限られない普通のスポーツで県下で優秀な成績を残せた村であるので、スキー以外でのスポーツ振興に力を入れてほしい。スポーツ振興と産業振興との混同。	3.4					
					体協・総合型地域スポーツクラブ主催教室参加者数	4,700	3,990	3,810		6,000	SNSによる情報発信・館内イベントの開催等により参加者増に取り組みます。								
			子どもが日 常的に楽し くスポーツ に取り組む ことができ る環境 づくり	生涯学習 スポーツ課	中学生のスポーツ実施率	84.0%	-	-		89.0%	R6年度にアンケートを実施し実績値を求めます。								
					小学生のスポーツ実施率	88.0%	-	-		80.0%									
			スポーツ競技 者の競技力 向上	生涯学習 スポーツ課	スポーツ功労賞等受賞者数	28	30	37		30	ウインタースポーツ以外でも全国大会で活躍する選手が増えています。引き続き受賞者の掘り起しを行います。								
					スポーツ少年団登録者数	320	320	300		410	少子高齢化により減少傾向がみられます。また、取り組むスポーツの多様化が進んでいますが、登録者数増に向けた体験会等を実施し登録者数の増加につとめます。								
					体育協会加盟団体登録者数	1,000	930	910		1,300	少子高齢化により減少傾向がみられます。また、取り組むスポーツの多様化が進んでいますが、登録者数増に向けた体験会等を実施し登録者数の増加につとめます。								
					白馬村スキークラブ競技登録者数	50	32	34		70	村の文化でもあるスキー競技の発展に向け、スキークラブと連携し、競技者登録増加を目指します。なお、小中学生の競技者数は104人で減少傾向です。								
			スポーツ施設 の整備及び 充実	生涯学習 スポーツ課	社会体育施設等利用者数(延べ)	47,000	61,000	57,000		96,000	予約システムの改善を求めながら、引き続き利用しやすい環境の構築に努めます。								
					ウイング21利用者数(延べ)	67,000	74,000	64,000		62,000	各種団体が開催するイベントや教室の開催数により利用者数の増減があります。今後も関係団体と連携を図り利用者数の増加に努めます。								
					クロスカントリー競技場利用者数(延べ)	7,000	11,000	12,000		13,500	管理委託している白馬村スキークラブとも連携し、さらなる利用者を増やすよう努めてまいります。								
			一人ひとりに活 躍の場がある 村づくり	人のつながりによる活 力の創出	若者交流・ 結婚支援	総務課	広域連携による若者交流イベント開催回数	1	0	1					2	北アルプス連携自立圏による異業種交流セミナーとして共催で実施しています。	2.4	定住促進と子育て世代が夫婦共に働ける環境づくりと関連して推進してほしい。 進学した若者のUターンを促進してほしい。 ジャンプ競技場でのイベントは良い。さらなる進展を。行政が全て行うのは問題。	2.6
							婚姻数	100 (42)	104 (36)	(41)					150	上段は届出総数、下段は住民登録者の件数を示しています。			
				男女共同 参画社会の 推進	女性活躍の 推進	総務課	白馬村役場の女性職員の課長・係長登用割合	18%	15%	30%					35%	課長2名 係長相当12名	3.1	フレックス勤務等により女性の社会進出を望む。 役場に女性管理職がいるのは良いことである。	2.6
							白馬村役場の女性職員の採用割合	0%	33%	62%					40%	採用人数8名中、女性職員5名(一般職1名、保健師2名、保育士2名)を採用しました。			

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価	
自然_魅力ある自然を守る村	かけがえのない山岳自然環境を守る村づくり	天恵の自然との共生	自然環境保護	観光課 総務課 生涯学習 スポーツ課	環境配慮型トイレへの改修	0	0	0			2	【観光課】山岳トイレは改修時に環境配慮型へ移行するよう検討します。	1.4	設備の充実も重要であるが、環境整備の財源（入山料等）も考えてほしい。 現在の村営の山小屋のし尿処理方法は問題あり。早期の改修が望まれる。	1.8	
			自然エネルギーの利活用	気候非常事態宣言、ゼロカーボンシティ宣言に対する取り組み	総務課	気候非常事態宣言、ゼロカーボンシティ宣言の行動計画の策定	ゼロカーボンブックの作成	○	○		行動計画の策定	2050年を到達目標としたゼロカーボンビジョンを実現するために、2030年を目標としたゼロカーボンロードマップの策定を進め、骨子の策定を完了しました。（R6年5月に、骨子を踏まえた「白馬村ゼロカーボンロードマップ」を公表しました。）	3.1	ゼロカーボンロードマップは広報に載ったが知っている村民は少ない。知っていたとしても誰も信じていない。そもそも観光で人が遠距離を移動して自然豊かな場所で消費活動を行うことがゼロカーボンに繋がるとは誰も思っていない。 重要課題ではあるが現実には厳しい。 自然環境を守る取り組みは評価できるが、もう1歩踏み込んだ政策も検討すべき。例えばEVを除くマイカー入村規制や自然エネルギー活用施設への優遇処置なども検討してほしい。 もっと積極的に発信してほしい。 水力発電を推進する。農水省関連の助成金を当てにする事業ではないものとする。 小水力発電の推進に期待する。 電気自動車で訪れた人しか宿泊できない、スキーを楽しめない、山に行けない、など産業に負荷をかける覚悟の施策が必要。	3.0	
		グリーンエネルギー・自然エネルギーの利活用	農政課 観光課 総務課	小水力発電量（万Kwh/年）	117	129	130			140	【農政課】順調に稼働しました。発電機に負荷をかけない安全運転を心掛けています。					
				ベレットストーブ購入補助件数（累計）	55	60	ベレット58 薪ストーブ3			34→75 ベレット60 薪15	【農政課】再生可能エネルギーの木質バイオマス活用のため拡充を目指します。					
				ベレット販売数量(袋)－伐採木配布回数	0	4	3			±300 4	【農政課】支障木やナラ枯れくん蒸材の有効利用により、再生可能エネルギー活用、地域材活用に繋がりました。					
				低公害公用車両数	5	5	5			6	【総務課】R5年度については、低公害車の購入はありません。公用車の更新に合わせ、計画的に低公害車へ更新していきます。					
												30件/累計	【総務課】EV自動車等購入促進補助金の創設により、車両の買換えと連動した補助金申請が増えています。 中山間地の移動車両のEV化は、カーボンニュートラル実現のための重点課題と位置付けているため、買換え需要にあわせたEV化促進に取り組めます。			
	自然との生き方を受け継ぐ村づくり	守るべきふるさととの歴史と文化の継承	先人が築いた有形・無形文化継承	生涯学習 スポーツ課	村の歴史や文化を知る講座やイベントの開催回数	24	25	15			15	引き続き「山麓めぐり」や震災アーカイブ事業に取り組んでいます。また、各地区に保存されている個人所有の古文書を題材とし、古文書講座を開催しました。	3.3	村の歴史を知らない人が増えている。過去の自然災害も含めて歴史についての講座の充実を望む。 学校教育でも取り組んでいると思うが、成果はあまり感じられない。 講座等とはよく開かれているが、講座の講師などの継承者が確保できるか不安。 事業継承者育成を図る事業に取り組んでほしい。 観光事業者は講座を受けようとしないし、平日開催では平日勤め人は参加できない。 外国人に村の歴史や文化を尊重しマナーを守ることを徹底してほしい。	3.8	
			登山・スキーの歴史・文化の継承	生涯学習 スポーツ課	体協スキー教室参加者数	70	42	36			70	趣味の多様化等によりスキーに目を向けていただけない状況が続いています。まずは始めていただくをモットーに引き続きウィンタースポーツへの入口となるよう取り組んでいます。				
																20
	美しい景観を守り育む村づくり	自然環境に調和したまちづくりの推進	世界水準の観光地に相応しい開発基準	建設課	世界水準の観光地にふさわしい開発基準	環境審議会 1回	環境審議会 5回	開発審議会 1回				-	新開発調整条例の適用となる開発案件は1件です。適正な開発が進められるよう開発審議会において指導・助言を行っています。	3.3	営業妨害になる可能性もあり難しいかもしれないが、厳しい開発規制条例を望む。この美しい景観や自然を残すには規制も必要。美しい自然があつてこそこの白馬村。同時にゾーニングの推進が重要。 白馬村が乱開発とならないよう開発審議会、景観計画策定委員会の議論に期待する。 不動産売買が活発化しているが、スプロール化しないような対策も必要ではないか。 美しい風景を守るため駅前無電柱化など継続的な整備をお願いしたい。また、リゾート地としてアクティブに過ごす環境整備も必要。（多目的歩道：ジョギング・ウォーキング・サイクリングなど） 空き家バンク制度の成果に期待したい。 無電柱化など財源の確保が課題。 景観行政は個人の自由を制限するものであり実効性を上げるのに難しい分野である。これからが大切であるが、現時点で一定の評価はできる。 建築関係の書類は役場の接道や農地法、上下水道などの個々の分野でしか通らないので景観関係については遺漏のないよう対応してほしい。 屋外広告物パトロール、景観パトロールを実施するのが効果的で良い。 無電柱化が成就しても建物や広告物により景観が良くなるわけではない。無電柱化は必要条件であつて十分条件ではない。 白馬駅前の整備を早期に進めてほしい。 村道に隣接する地権者の理解・協力・連携が必要。（例えば越境する花木の剪定、植栽植物の統一化など） 村道支障木が多い。 厳しい財政状況も理解するが国道・県道・村道の路側の草刈り回数を増やしてほしい。 村道の維持補修はよくできている。	3.4
					美しい風景を守るための景観形成	建設課	景観計画の策定	景観計画策定委員会 11回	景観計画策定委員会（景観審議会） 5回	景観計画策定委員会1回			計画策定			
白馬駅前無電柱化に伴う歩道の修景距離							130m	130m	100m			1,100m	県道白馬岳線の無電柱化工事に合わせ、歩道の修景事業を行った他、地元地区で行う街路灯整備に対する支援（補助金交付）を行いました。			
屋外広告物パトロール実施回数			1回	1回			1回			1回/年	計画どおり年1階実施しています。					
空き家・廃屋対策			総務課	空き家の数	14軒	14軒	210軒			14軒	7年ぶりの村内全域を対象にした空き家調査を実施し、現況の実件数を把握し、空き家データベースを整備しました。 管理不全空き家の発生抑制と空き家・空き地バンク制度の活用に向けてデータの活用を図ります。					
				不法投棄・野外焼却の防止	不法投棄パトロールの回数	34	35	35		34	週1回の不法投棄監視員による巡回を継続しています。 野外焼却や悪質な不法投棄の通報については、警察と連携し厳しく指導に当たっています。また、ホームページ、広報はくば等により不法投棄・野外焼却防止の啓発に取り組めます。					
美しい風景を守るための道路景観保全			建設課	村道管理幅の支障木、雑草の防除	管理総延長 315km	管理総延長 315km	管理総延長 315km			L＝10.0Km	集落支援員1名を雇用し直営による道路維持作業を重点的に行ったほか、地区で行う沿道の草刈り作業等に対し燃料費支弁等を行い自主活動を支援しました。（燃料費支弁 延べ26件）					
				道路と景観を一にする緑地の除草回数	3回	3回	4回			5回	夏の観光トップシーズンに合わせ緑地帯の除草・草刈りを行いました。					
				道路粉じん清掃の実施	2回	5回	5回			2回	地域からの要望も踏まえ、直営重機等も活用して実施しました。					

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	R3 2021 後期計画 基準年 実績値	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025 後期計画 目標年	R7 2025 目標数値	R 5 実績についての内部評価コメント	R5成果に 対する 外部評価	外部評価コメント	(参考) R4成果に対する 外部評価
自然__魅力ある自然を守る村	きれいな水と空気に囲まれる村づくり	ごみ処理広域化への対応とごみ減量化	ごみ収集・運搬体制の強化	住民課	地区集積場箇所数	79	79	80			80	地域の人口の増加に伴い1地区の小規模ステーションが増設されました。施設管理体制の強化のため1地区へ防犯カメラの設置の補助を行いました。今後も質の高い収集運搬体制を構築するため地域へ働きかけを行います。	3.4	観光シーズンには貸別荘を利用する観光客が多く、ごみの分別がなされない状況が見られる。本来であれば事業ゴミとして処理されるものであるが、管理者を置かない施設も多く見られる。外国人を含む観光客に対してもごみの分別やリサイクルを啓発する取り組みを通して、事業系ごみの一層の削減が必要。ごみ処理業務従事者の態度が気になる。ルールの徹底は必要であるが、言動は丁寧であるべき。アパート住民には強く指導し周知徹底を図ってほしい。（例：福島市の分別推進の施策）生ゴミリサイクルの可否を先進地の方法を分析してみたらどうか。（例：長井市のレインボープラン）収集体制は良い。村民の協力が必要。	3.3
			ごみの削減と分別の徹底	住民課	生ごみ処理機利用世帯数	378	402	427			330	ケーブルテレビやYouTube等の動画媒体を活用し広報を展開しました。各家庭から出る生ごみの削減の機運が高まるよう積極的に積極的にPRを行います。			
					焼却ごみの量（t/年）	2,420	2,817	3,007			2,800	村内の経済活動の活性化によりごみの総排出量が増えています。未だその過渡期であると思われ、新たなごみ減量プランを検討します。			
		きれいで安心・安全な水環境	北ア広域連合との連携によるリサイクルセンターの活用とリサイクル率の向上	住民課	リサイクル率	18.8%	18.8%	17.5%			30.0%	インバウンドによる経済活動が活発化したことにより、事業系可燃ごみの排出量が急増しました。ミライへの分別と題し、一人ひとりが取り組める活動を毎月シリーズ化して広報はくばに記事を掲載したり、ケーブルテレビで番組を制作したりして周知を強化しています。	3.5	多くの観光客を迎える村なので人口の割合に対して大きな設備を備える必要があることは理解するが、それらの設備負担金は住民に対しての応分の負担なのか疑問が残る。（その視点から見た説明もあればよい良い）他県では下水道管の老朽化による事故が発生しているため、白馬村においても定期的な維持修繕をお願いしたい。大規模宿泊施設の下水道加入をチェックしてほしい。引き続き有取水率向上に勤めていただきたい。災害（地震）に強いインフラ整備に期待したい。「宇宙上下水道局」は冗談でなくなってきたので、最先端科学を利用したインフラ維持管理を検討してほしい。観光産業で成り立つ自治体はインフラにお金がかかるが仕方がない。寒河江市は宿泊施設に依存しない「まちづくり」である。	3.3
			上水道の安定供給	上下水道課	有収率の向上	43.87	44.45	46.31			60	R5年度は老朽管路の更新工事及び配水管路の漏水調査業務を24km実施し有収率の改善を試みました。実績では1.86ポイントの上昇となっています。引き続き冬期間の漏水事故への注意喚起や管路更新・漏水修繕に取り組んでまいります。			
			水質保全	上下水道課	良好な水源水質の持続	基準内	基準内	基準内			原水全項目検査を基準内に維持する	水質検査・指標菌検査とともにすべての項目で基準値以下を維持できています。異常気象による降雨量の増加や冬期の降雪量の減少など、原水の水量・水質について引き続き監視していきます。また、R6年度は有機フッ素化合物であるPFOS/PFOAの上水道への影響について調査します。			
			ストックマネジメントの実施	上下水道課	ストックマネジメントの実施	0	30	70			100	R5はストックマネジメント個別計画及び浄化センター水処理施設の耐震診断を行いました。R6年度の浄化センター内の管路耐震診断の結果による必要な耐震補強工事とストックマネジメント個別計画により今後の浄化センター再構築の進め方を決定していきます。			
			効率的なし尿処理方法の確立	住民課				30%				し尿・浄化槽汚泥・農集排を公共下水道にて一元的に処理する下水道投入施設の、基本設計・生活環境影響調査・用地測量が予定どおり完了しました。また、希釈水として使用する計画であった地下水からの取水が困難になったため、急遽、追加調査を行い、湧水からの取水に切り替えました。今後は、早期の完成を目指します。			